

令和 6 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

畜産 DX・地域資源フル活用による安全・安心なブランド牛肉の一貫生産

○氏名又は名称 株式会社 蔵王ファーム （代表 高橋 勝幸）

○所 在 地 山形県南陽市

○出 品 財 経営（肉用牛一貫）

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

南陽市は、東に奥羽山脈、南から西にかけて吾妻山系と飯豊山系に囲まれた県南部の置賜盆地に位置する、人口約 3 万人の市である。農業産出額は 87.9 億円であるが、うち肉用牛は 3.1 億円であり、畜産経営体は乳用牛 17 戸 1,077 頭、肉用牛 17 戸 962 頭、豚 5 戸 18,169 頭となっている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）蔵王ファーム代表取締役社長の高橋勝幸氏は大学卒業後、民間会社勤務を経て昭和 60 年に父親が経営する肉用牛生産・加工・流通・販売一貫経営体の牧場部門に入社。暫時経営を引き継ぎつつ規模拡大により黒毛和種繁殖牛 512 頭、黒毛和種子牛・育成・肥育牛 1,228 頭、交雑種肥育牛 1,410 頭まで増頭（所在地以外の飼養頭数含む）するとともに、畜産 DX の導入、飼料用米やエコフィードをフル活用した TMR 飼料の導入等により安全・安心なブランド牛肉の一貫生産の経営体制を築いた。

・ 受賞者の特色

（１）畜産 DX・地域資源フル活用の TMR 導入による生産性向上と飼料費の低減

飼育牛の全情報をクラウド上で一元管理し、平均分娩間隔 12.4 ヶ月、子牛生産率 94.9%、和牛上物率 99.2%と生産性向上を達成した。また、地域の飼料用米やエコフィードを TMR 飼料に調製し飼料費を県平均と比べ 3 割以上削減した。

（２）徹底した飼養衛生管理とアニマルウェルフェア重視の管理等を通じた全牛ブランド化

全農場が農場 HACCP（内 1 農場は JGAP も）を取得し飼料への抗菌抗生剤・ホルモン剤の無添加に加え飼養衛生管理基準を徹底し、飼育密度を 1 頭当たり 8 m²以上とするなどアニマルウェルフェアを重視した飼養管理等を通じて、全牛ブランド化を達成した。

（３）女性の活躍

女性役員が新ブランド牛の企画責任を担うほか、女性 9 名が繁殖や哺育等を担当し飼養管理法の各種改善により事故率低減を実現するなど貢献している。

・ 普及性と今後の発展方向

畜産 DX を活用した生産性向上やエコフィードなど地域資源を TMR 飼料としてフル活用し飼料費削減を図る取組は、畜産経営のベンチマークとなる。また、アニマルウェルフェア重視の新牛舎建設やふん尿を用いたバイオマス発電施設の設置など先導的な計画も進んでおり、更なる発展が期待できる経営体である。